

豊水トントン900人が競演



『豊水トントン』踊り

～のぼりべつ豊水まつり～

7月14日(土)と15日(日)の2日間、登別中央ショッピングセンター・アーニス横のらいば公園と、富士橋からJR幌別駅前までの通称らいば通りの完成記念を兼ねた『2001のぼりべつ豊水まつり』（同実行委員会主催）が開催されました。

初日の14日(土)は夏日和に恵まれ、幌別中学校吹奏楽部の演奏でまつりが開幕し、女性腕相撲大会や缶詰み競争、ちびっこよさこい、太鼓演奏などが行われ、まつりを盛り上げました。

また、夜にはこの日の最大行事である『豊水トントン』踊りが、花火の合図でスタートし、浴衣や法被姿の男女900人が競演。また、沿道にはおもちゃや飲食コーナーなど約50軒の露店が並び、大勢の市民で身動きが出来ないほどのにぎわいを見せました。

15日(日)は、HBCラジオの公開録音を兼ねた市民カラオケ大会をはじめ豊水裸みこし、子どもみこし、ちびっこ浴衣ショー、ビンゴ大会など盛りだくさんの催し物が行なわれジャズコンサートでフィナーレを迎えました。



◀アイス早食い競争に参加した子どもたち

基本をしっかりと学びました

～陸上競技講習会・指導者養成講習会～

6月16日(土)、市営陸上競技場で文化・スポーツ振興財団主催による『陸上競技講習会・指導者養成講習会』が開催され、市内の小学校から5・6年生の児童と『登別走ろう会』のメンバー合わせて64人が参加しました。

この講習会は、今年で11回目となる登別合宿を行っている東海銀行女子陸上競技部の協力により、毎年行われているもので、この日指導に当たったのは同陸上競技部の竹内伸也監督と先の陸上日本選手権女子800mで日本歴代2位の記録を出した松島朋子選手。



参加者は、歩き方や走り方などの基本をしっかりと学ぼうと、アドバイスを確認しながら、元気にトラックを往復していました。

介護サービスの向上を目指して

～平成13年度第1回介護保険運営協議会苦情処理専門部会～

新しい自分と出会う旅

～登別市中学生海外派遣結団式～

6月19日(火)、市民会館で中学生海外派遣団の結団式が行われ、市内の中学校6校から派遣される6人（男子2人、女子4人）



の生徒が初めて顔を合わせました。

この中学生海外派遣は、次代を担う中学生に外国の生活や異文化の体験を通して、国際社会に対応できる豊かな人間性を身につけてもらおうと平成4年度から行われており、10回目を迎えた今年は、8月11日(土)から19日(日)までの9日間、デンマークをはじめ、オランダ、スウェーデンなどを訪問し、ホームステイや学校訪問などで親善交流を深めます。メンバーの藤川賢君（鶯別中学校2年生）は「外国へ行くのは初めて。デンマークではホームステイを通して、友達をたくさんつくりたいです」と話してくれました。



6月25日(月)、『第1回介護保険運営協議会苦情処理専門部会』が市役所内で行われました。

同部会は、利用者からの介護に関する相談や苦情などに適切に対応するため、介護保険運営協議会の専門部会として今年度から設置されたもので、同協議会の委員3人が内容を審査し、審査結果を基に市が介護サービス提供事業者に指導や助言などを行います。

初めての部会となったこの日は、市が4月から在宅介護サービスの利用者を対象に行った訪問相談内容の報告を受けました。同部会は今後、3カ月に1度開催される予定です。